学び舎通信

２月号

町内小中学校の情報を
毎月お届けします

「１年のまとめと　次年度への飛躍」

1月10日に行われた始業式では、各学年と生徒会の代表による所感発表がありました。合唱コンクールやスポーツ大会で団結を強めた学級の仲間と過ごす時間を最後まで大切にしたい。中総体に向けてしっかり準備をしていきたい。勉強と部活動を両立できるように努力する。受験に向けて声を掛け合いながらみんなで頑張っていきたい。挨拶運動を全校生徒で活発にしていこう。それぞれの強い思いが伝わる立派な発表でした。

3学期は学年のまとめの時期でもあり、次年度への準備の期間でもあります。一人一人の思いが叶えられるよう、チーム大中の取り組みを続けていきます。

新年の気持ち新たに…「校内書きぞめ展」

昨年12月、国語科では全学年とも書きぞめ練習会を実施しました。教室の2倍近くもある多目的室にクラス全員が書写用具を広げ、一斉に書きぞめをする光景は圧巻です。いつもとは違う雰囲気で心をこめて筆を動かす様は、キリリと引き締まった感じがします。

1月13日からは校内書きぞめ展を開催し、展示コーナーには硬筆も展示してあります。各学年金銀銅の審査結果に一喜一憂した生徒は、優秀作品を眺めながら文字の上達を願っていました。また、どの生徒の表情からも新年に向かう決意が感じられました。

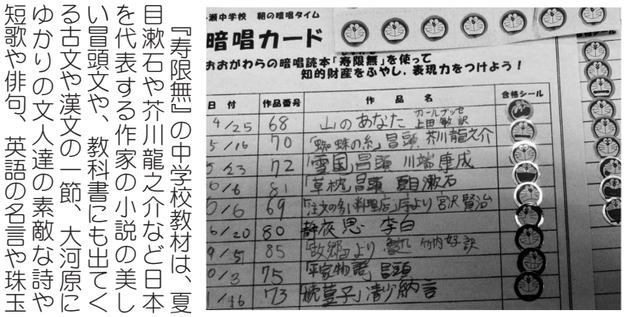
暗唱大好き　シリーズ⑩　金中編

金ヶ瀬中学校は月曜朝の「暗唱タイム」で脳のウォーミングアップ

今年度4月から全校で取り組んできた、毎週月曜朝の『暗唱タイム』。

おおがわらの暗唱読本『寿限無』のなかから、1週間に1作品を目安に暗唱練習に取り組んできました。

けだるくなりがちな月曜の朝も、リズミカルに暗唱練習することで、さわやかになる気がします。音読が脳を活性化させることから、その後の授業へのウォーミングアップ効果もあるようです。



『寿限無』の中学校教材は、夏目漱石や芥川龍之介など日本を代表する作家の小説の美しい冒頭文や、教科書にも出てくる古文や漢文の一節、大河原にゆかりの文人達の素敵な詩や短歌や俳句、英語の名言や珠玉のスピーチなどなど、まるで宝箱のような構成です。暗唱自体の効果もさることながら、一生忘れない自分の知的財産になるものだと思います。

暗唱カードのドラえもんシールが増えるたび、金中生の心はさらに豊かになっていくのでした。

暗唱サイコウ！

読書大好き、図書室大好き　～読書活動推進～

本校では、本が大好きな児童を育成するために、様々な取り組みを行っています。

まず、朝の時間には、学習支援ボランティアに臨場感あふれる読み聞かせを行っていただいております。図書委員会では、本を10冊以上読むと、図書委員手作りのしおりをプレゼントするなどの取り組みを行っています。他にも、季節の掲示を貼ったり床にカーペットを敷いたりして、楽しい図書室になるように工夫しています。休み時間には多くの児童が図書室へ来室しています。

現在、さらに通いたくなる図書室を目指し、図書室の環境整備を図っています。

全校漢字テスト

1月11日全校漢字テストを行いました。金ケ瀬小学校では、夏休みと冬休みが終わっての2回全校漢字テストを行っています。

長期休業中に練習してきた成果が発揮されるように児童は一生懸命取り組みます。学年それぞれに問題数や出題範囲も違いますが、ほとんどの児童が合格できるように頑張っています。

ちなみに、今回行った1年生と6年生の問題で間違えが多かった漢字をいくつか紹介したいと思います。1年生は、「学校」「先生」「赤い」「足」「生きる」でした。6年生は、「展」「勝利を収める」「降る」などでした。学年が進むにつれ難しくなりますが、はね、とめに気をつけさせながら丁寧に練習することが大切と感じました。

ようこそ西住小学校！

大河原中学校入学に向けて、6年生は、柴田町にある西住小学校と学校間交流を行いました。子どもたちは、はじめは緊張していたようですが、誕生日順に並んだり、新聞紙の上でジャンケンをするゲームをしたりして徐々に緊張がほぐれていったようです。休み時間には、学校案内もしました。西住小学校の友達と親しくなり、中学校生活への期待を大きく膨らませることができました。

身近な自然再発見
…人間と共生する昆虫たち…

34 昆虫界の「みつぐ君」

▶オドリバエ

バブルがはじける前の90年代には「アッシー君」や「みつぐ君」が大活躍していたものです。今回は、昆虫界の「みつぐ君」を代表してオドリバエに登場してもらいましょう。

オドリバエは名前にハエとついていますが、体長が1センチほどの小型のアブの仲間です。北米大陸に3千種、日本でも千種もいるそうです。

この虫はオスがメスに餌となる虫をプレゼントすることで知られています。研究者によると、メスが受け取った餌の体液を吸うのに夢中になっているすきに、オスが交尾を済ませてしまうのだとか。

オドリバエのプレゼントのやり方は種類によって様々なようです。なかには、自分が出す分泌液で餌を包んでから渡すマメなタイプや、餌の代わりに自分のつばを丸めた団子を渡すちゃっかりタイプもいるとか。

また、オドリバエは何回も交尾をします。オスは交尾の前にまず自分の前に交尾した他のオスの精子を奥のほうに押し込めるそうです。自分の精子が少しでも受精しやすくなるようにがんばっているわけです。

プレゼントでメスの気を引いたり、ライバルの精子を奥まで押し込んだり、オドリバエのオスたちは涙ぐましい努力を重ねていますね。恋の駆け引きで贈り物作戦が有効なのは人間界でも同じですよね。

もうすぐ全国的にチョコをプレゼントする日がやってきます。最近では上司や同僚よりも自分や友達に高いチョコを買う女子が増えたそうです。以前は義理チョコをもらって喜んでいたおじさんたちも、今年はもらえずがっかりするかも。

次回は、「カンケンソウコ」にまつわる虫の話です。

元金小校長、昆虫教室（町教育委員会主催）講師　鈴木健司さん